

magis

St. Ignatius Church



『マジス』はラテン語で、イエズス会のモットー「神のより大いなる栄光のために」を表しています。

教会テーマ『勇気と寛大な心をもって出かけて行きなさい』(教皇フランシスコ)―「ミッション2030」―福音を伝える

今日のイエズス会と福音宣教そして私たち

イエズス会第36回総会(2016)が今日のイエズス会の福音宣教のあり方と問いかけについての指標を与えてくれます。それは、キリストの和解の福音を告げ、生きるための派遣です。具体的には、神、人間同士、そして被造界(自然)との和解への呼びかけです。「神は、キリストを通してわたしたちをご自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。」(2コリント5:18)とパウロが伝えるように、和解の奉仕は、キリスト者である私たち一人一人の避けることのできない務めです。独りで取り組むことは不可能であり、意味を持ちません。ともに労苦し、分かち合う仲間が必要です。

イエズス会総会教令には、会員だけで福音宣教をする時代は、すでに終わっていることが、以下のようにはっきりと謳われています。一協働によって、教会のメンバーとしてわたしたちの真のアイデンティティーが見えてくる。さらに、それぞれの形で聖性に呼ばれている者の相互の補い合い、キリストのミッションに対する共同責任、善意の人々と共に人類や神の国の到来に奉仕する望みが、すべて協働によって現れてくる。(35 総会・第6教令30)

一イエズス会に託されたミッションを遂行しうる唯一の道は、会員でない人々との協働である。この協力者には、キリスト教信仰をともにする人々、他の宗教の人々、その他善意の男女が含まれており、彼らも私たちと同様、キリストの和解の勤めに協働したいと望んでいる。(36 総会・第1教令36)

また、アルトゥーロ・ソーサ総長も総会の説

教の中ではっきりとこう述べています。「私たち(イエズス会)は、広い心をもって人々と協働したいのです。神体験やイエス・キリストのミッションに呼ばれているという意識を持って、私たちの方から教会内外の人々と協働したいのです。呼ばれているという意識は、私たちだけのものではなく、他者への奉仕に自己を捧げた多くの人々と共有するものなのです。」(ソーサ総長ミサ説教・2016年10月15日)

以上のことからはっきり言えるのは、従来の与え手と受け手の関係は終わり、新しい次元に入ったということです。福音宣教を考えていく上で、お互いが「和解の奉仕の協働者」であるという意識と実践が不可欠になりました。

押し付けあうでも、主張し合うでもなく、神の霊がどこに私たちを導こうとされているのかを知るために、識別をともに行なっていきましょう。また、自分にできる愛と奉仕を工夫しながら、恐れずに、大胆に行っていくために、霊の導きに柔軟かつ、使徒として「養成されつつ」あることを意識しましょう。その過程で、神の国の告げる和解のため、神が望まれているわたし(たち)固有の「和解」の福音のあり方を、「単なる口先だけによらぬ具体的な行為で示される生活様式」(教皇フランシスコ36回総会への講話)の次元で表明し、聖霊によって新たにされ、救われつつあるキリスト者としての矜持を持って、ともにキリストのいつくしみに養われながら、働いていきましょう。

協力司祭 酒井陽介

私たち聖イグナチオ教会は、祈りにもとづく使徒的共同体を生きていきます。

現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、環境破壊など、未来に希望を見いだしにくい反福音的なものに脅かされています。それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、いつくしみの扉を開いていきます。

私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、貧しい人や弱い人の声を聴き、皆でともに手をたずさえて（日本人も外国人も、老いも若きも）、福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。

2月の共同祈願

イエス、マリア、ヨセフ、ナザレの聖家族よ、
主のたまものである結婚によってつくられた
わたしたちの家庭が、
まじわりの場、祈りの場、福音の学びの場、そして
小さな家庭の教会となり、
傷ついたもの、つまずいたものが
いやされ、慰められ、
いこいと救いの場になりますように。

フランシスコ教皇著『愛のよろこび』の中に紹介されている教皇さまの「聖家族への祈り」（281頁以下）を土台として作成しました。

イグナチオ教会の皆さま

かなり遅いですが、明けましておめでとうございます（1月号が12月号との合併号なので、こんなに遅くなりますが）。

思い起こせば、昨年1月に佐々木主任司祭が突然入院することになって、私が急遽、主任代行になったところから悲劇が始まりました。その後いろいろとあり、体力的にも精神的にもかなり辛い時期がありましたが、神の支えと信頼できる信徒の方々の協力によって、何とか乗り切ることができました。旧年中は、お世話になった方々に心から感謝です。

今年は聖イグナチオ教会にとって、節目の年です。新しい聖堂になってから献堂20周年を迎えるので、いわば成人式ということでしょうか。新聖堂建築の際、「意識の転換」という意識改革からスタートしました。20歳を迎える今、「ミッション2030」という旗印のもとに着実に歩んでいます。2017年度は「祈りを深める」、2018年度は「福音を伝える」

という点を特に意識しています。どちらをとっても、その年で終わりということはなく、それを起点にしなが、さらに深化と展開をはかっていきたいです。

2019年度は、「共同体を生きる」ということがテーマになりますが、献堂20周年の年にふさわしいテーマだと思います。単に共同体だけを考えるのではなく、祈りに基づいた福音宣教を旨としながら、共同体づくりを意識していきたいです。信徒評議員会やミッション促進チームなど、核になるメンバーが必要ですが、共同体メンバー全体で共に祈り、分かち合いながら、神の恵みに満ちた年にしていきたいです。

どうぞ今年もよろしくお祈りします。皆さまに神の祝福がありますように。

主任司祭
英 隆一朗 sj

四旬節黙想会

3月21日(木) 春分の日
テーマ：神のしもべ ペドロ・アルペ
－ 他者とともに生きた人 －

指導：酒井陽介神父

場所：主聖堂

午前の部 10時～11時半

午後の部 13時～14時半

15時からミサ

ペドロ・アルペ神父(1907-1991)様について

信徒会館3階 アルペホール由来の神父様。スペインに生まれ1938年、宣教師として来日。1942年、広島の高尾修練院修練長。1945年、広島への原爆投下の時、専門の医学の知識を生かし、被爆者の救援・介護に尽くした。1958年、イエズス会日本管区の初代管区長。1965年、イエズス会第28代総長となる。

昨年、ローマ教区において「列福調査」が始まること発表されました。

子どもと家庭のクリスマスミサ



ミサの中で子どもたちによる聖劇が行われイエズス様の誕生を小さな子どもたちに知らせました。

ミサの後、サンタクロースからお菓子のプレゼントをいただき、心温まるクリスマスを親子で迎えました。

クリスマスバザー



2018年度クリスマスバザーは12月2日(日)に盛会のうちに実施されました。好天に恵まれたこと、春のバザーが無かったこと、終了時間を30分延長したこと、近隣の住民の方々を含めて来場者が多かったことなどにより、例年になく多くの献金をすることができました。バザーの各出展グループの皆さん、開催準備、後片づけなどお手伝い頂いた多くの方々に厚く御礼申し上げます。必要経費を差し引いた頒布金総額は3,267,364円でした。献金先については次ページをご覧ください。

2018年度クリスマスバザー実行委員会

クリスマスイヴ



2018年のクリスマスイヴは15時のミサに来られた方が一番多く、ファミリー層も目立ちました。また、主聖堂前では国際ナショナルユースミニストリーによるクリスマスソングのプレゼントもありました。

新年会 (日本語)



神父様方による日本の伝統的な鏡割りで新年をお祝いしました。

新年会 (英語圏)



Happy New Year! ダンスで盛り上がりました。

新年会 (スペイン語圏)



イエズス会日本管区管区長のレンゾ神父様が参加され、楽しいひとときでした。

成人式ミサ



新成人を祝福し、これからも導いていただくことを神様にお願いし、ミサ後お祝い会をしました。

12月・1月の宣教司牧評議会から

- ・ 12月2日(日)クリスマスバザーの頒布金は3,267,364円でした。
- ・ 広島教区へ「西日本豪雨災害支援」として主聖堂前で行った募金2,068,290円とクリスマスバザー頒布金の一部1,067,364円の合計3,135,654円を献金いたしました。
- ・ インドネシア州イエズス会へ「ケララ州洪水災害支援」としてクリスマスバザー頒布金から2,200,000円を献金いたしました。
- ・ ワールドユースデー2019パナマ大会に5名の青年を派遣する予定でしたが諸事情により3名の派遣となりました。
- ・ 献堂20周年にあたり、「献堂20周年記念行事実行委員会」を設置し、内容検討を進めます。

財務報告

- ・ 11月18日(日)ミャンマーデーの献金1,318,131円をミャンマーの教会へ送金しました。
- ・ 12月2日(日)宣教地召命促進の日の献金1,308,534円はローマ教皇庁へ送られ、全世界の司祭養成のために使われます。

一粒会献金

2018年の司祭召命のための一粒会への献金は1,806,360円になりました。皆様のご協力に感謝いたします。

3月6日	灰の水曜日のミサ時間
7:00	12:00 19:00
18:00	ミサはありませんのでご注意ください。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel

7:00 / 12:00 / 18:00

【日曜日 Sunday】主聖堂 Main Chapel

土曜 18:00 / 7:00 / 8:30 / 10:00 / 18:00
12:00 (English) / 13:30 (Español)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Main Chapel 15:00 (Việt Nam)
Our Lady's Chapel 12:30 (Português) 16:00 (Polski)
Xavier Chapel 16:00 (Indonesian)

【月の第3日曜日 3rd Sunday】

Main Chapel 15:00 (Việt Nam)
Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

主任司祭: 英 隆一朗

助任司祭: 李 相源
田丸 篤

協力司祭: ヘネロソ・フローレス
ハビエル・ガラルダ
酒井 陽介

ブラザー: 吉羽 弘明

シスター: イベッテ・サンチェス
(セントロ・ロヨラ)

ローズ・レミジオ
(ジョン・デ・ブリッド イングリッシュセンター)

カトリック麴町教会 (聖イグナチオ教会)

〒102-0083 千代田区麴町6-5-1

TEL 03-3263-4584 FAX 03-3263-4585

ホームページアドレス: <http://www.ignatius.gr.jp>